

# 1) 令和6年度事業の概要

野中正法<sup>1</sup>

## 1. 総合研究所の概要

財団法人海洋博覧会記念公園管理財団(昭和51年7月設立)は、公益法人制度改革により平成24年10月に一般財団法人に移行、団体名も「沖縄美ら島財団」と変更された。

当財団は、経営理念を「美らなる島の輝きを御万人へ」としており、調査研究・技術開発・普及啓発を総合的に進めるため、一般財団以降以前の平成20年12月に総合研究センター(令和5年6月より総合研究所に名称変更)を設置した。

組織は、所長、統括、普及開発課、動物研究室、植物研究室、琉球文化財研究室、美ら島自然学校で構成され、調査研究関連職員34名の体制である。また、3名の財団参与、及び16名の外部研究顧問からのご指導のもと、調査研究、普及事業を展開している。

総合研究所は目標として以下を掲げている。

- ・ 産業振興への寄与  
有用な海洋生物の繁殖・育成技術の開発、沖縄の在来作物の収集・栽培技術の開発、新しい園芸植物の作出、観光資源の情報集積・活用により産業振興に寄与する。
- ・ 環境問題への対応  
豊かな自然環境や多様な生態系を維持するため、サンゴ、ウミガメ等の海洋生物やラン類等希少植物の保護・育成、環境緑化等を推進し、生物多様性の保全、地球温暖化等の環境問題に対応する。
- ・ 公園機能の向上  
公園利用者ニーズの把握や満足度の向上、効率的・効果的な管理運営に関する調査、病虫害や外来種の防除技術開発等により、魅力ある緑地空間を提供。レクリエーションや環境学習、地域連携など多様なニーズに対応した公園の機能向上を図る。

## 2. 調査研究・技術開発事業

動物研究室では、沖縄周辺に來遊するザトウクジラに関し、国内外40以上の研究機関と連携して多角的な調査を展開。アジア13か国が参加する国際ワークショップを主催し、技術の共有と国際的な連携体制の強化を図った。

さらに、サメ類に対する人工装置の技術開発を通じて、生息域外保全に関するノウハウの蓄積を進めた。

植物研究室における保全の取り組みで、鹿児島県の奄美大島、沖縄県の伊平屋島や石垣島等に生育する希少植物の現地調査及び生育域外保全のための種子採集や発芽試験等を行うとともに、野生復帰の技術構築を試みた。

琉球文化財研究室では、琉球産弁柄について、名護市久志集落にて製造タンクを整備し製造を開始した。弁柄の採取量や品質の安定化に向け、採取量増加の試験を引き続き実施した。

## 3. 普及啓発事業

海洋文化館の魅力を発信し、施設認知度の向上と利用促進を図ることを目的とした「海洋文化講座」(全8回)を開催した。

沖縄県立博物館・美術館等では、総合研究所定期講演会を開催し、研究所の調査研究成果を広く周知する取り組みを継続した。また、夏休みの自由研究の手助けを目的とした企画展「さがそう!自由研究のタネ」を、本年度も実施した。

地域と財団の特色を活かした学習の場を提供することを目的に、教育委員会、各学校と連携し、学校のカリキュラムとしての学習を行う通年学習プログラムと、学校から都度、依頼をうけて行う1回完結型の学習プログラム(出前授業)を実施した。

沖縄島北部及び西表島の世界自然遺産登録地における自然環境の保全活動等の支援を目的とした世界自然遺産沖縄基金の基金造成のための寄付依頼、保全活動支援のための助成事業等を行った。

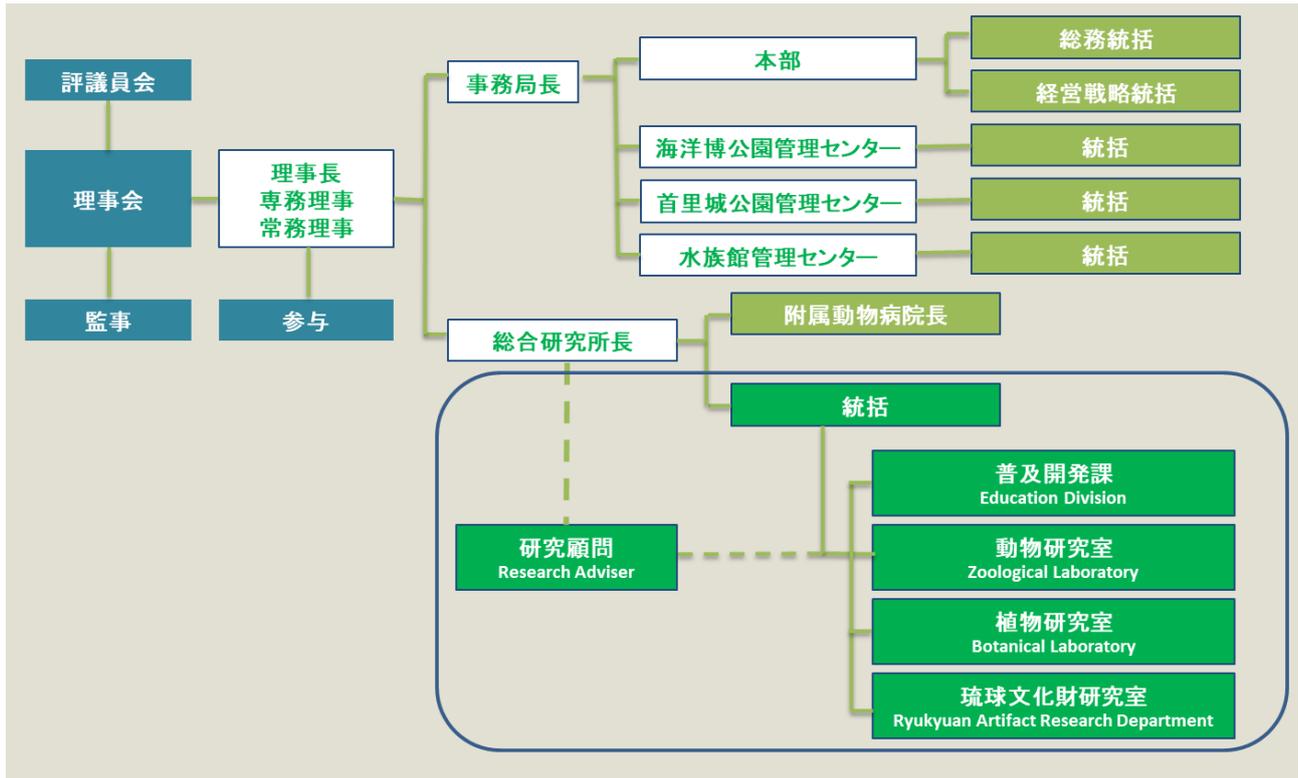
## 4. 外部評価委員会

今年度実施した調査研究及び普及啓発事業について、令和6年3月に課室ごとの外部評価委員会を開催、47件の事業について、財団参与、及び外部研究顧問より評価、助言を頂いた。各課室、多くの成果が出ていることが評価される一方、明らかに人員不足となっている研究事業についての対応が指摘された。各委員の評価及びコメント

<sup>1</sup>総合研究所 統括

トは、3月18日に各委員会の座長の命を受け、各課室長より理事長へ報告された。

5. (一財) 沖縄美ら島財団の組織図



6. 研究顧問（18名）

氏名	所属	役職	専門分野
池田孝之	琉球大学 特定非営利活動法人 沖縄の風景を愛さずる会	名誉教授 理事長	都市・地域計画 風景・景観まちづくり
亀崎直樹	岡山理科大学	教授	ウミガメ生態学
後藤 明	南山大学人類研究所	特任研究員	文化人類学 民族考古学
須藤健一	堺市立博物館 国立民族学博物館	館長 名誉館長	文化人類学 博物館学
グラント・エイブル	シアトル水族館	ライフサイエンス部 部長	鯨類学
立原一憲	琉球大学	元教授	魚類学 魚類生活史学
仲谷一宏	北海道大学	名誉教授	サメ類分類学 サメ類生態学
西平守孝	東北大学 名城大学	名誉教授	動物生態学 サンゴ礁生態学
上田善弘	ぎふワールド・ローズガーデン 広島県福山市役所	理事 世界バラ会議推進プロジェクトマネージャー	花卉園芸学 植物育種学 園芸文化論
佐竹元吉	昭和薬科大学薬用植物園薬用植物資源研究室	研究員	生薬学 天然物化学
高江洲賢文	JA おきなわ農業事業本部ファーマーズ推進部	アドバイザー	作物学 雑草生態学
花城良廣	(一財) 沖縄美ら島財団	前理事長	熱帯亜熱帯都市緑化植物 熱帯資源植物 熱帯民族植物
三位正洋	千葉大学	名誉教授	育種学 園芸学 植物細胞工学
安次富順子	安次富順子食文化研究所 (一社) 琉球料理保存協会	所長 理事長	琉球王朝の料理 食文化 琉球菓子
喜名盛昭	中国民族音楽研究家		中国民族音楽 御座楽、路次楽
高良倉吉	琉球大学	名誉教授	琉球史 沖縄学
西大八重子	生活文化研究所西大学院	学院長	琉球料理 茶道 暮らしの作法

<b>宮里正子</b>	浦添市美術館 沖縄県文化財保護審議会 沖縄県立博物館・美術館協会	前館長 委員 委員	琉球・東南アジアの 漆芸
-------------	--	-----------------	-----------------

## 7. 各施設の概要

### 1) 所在地

総合研究所研究棟 沖縄県国頭郡本部町字石川 888 沖縄美ら島財団本部内  
 美ら島自然学校 名護市嘉陽 41  
 琉球文化財研究室 那覇市首里桃原町 1 丁目 13 番地  
 同分室（琉球食文化） 那覇市久茂地 1 丁目 8-8 琉球料理美栄付 琉球食文化研究所内

### 2) 主な施設・設備等

名称	用途	備考
研究棟	鉄筋コンクリート地上 2 階。動物研究室、植物研究室の事務所、研究室、実験室、標本室等を備える。	地上 2 階 950 m <sup>2</sup>
美ら島自然学校	沖縄本島東海岸の調査研究活動拠点、及び一般向け・学校向けの普及啓発事業の拠点として活用。	利用者 9, 213 名/年
動物系実験室	DNA 解析、組織切片作成等の機器を備える。	
解剖室	ホイストクレーンを備え、大型動物の解剖にも対応。	
調査用車両	各種フィールド調査に利用。	普通車両 2 台
調査用ドローン	海洋調査、植物分布調査に利用。	陸上用 5 台 水中用 1 台
URM 魚類 標本コレクション	沖縄の魚類研究・教育・展示目的での標本の貸出を実施	約 60, 000 点の 魚類標本
植物 標本コレクション	沖縄の植物研究・教育・展示目的での標本の貸出を実施	約 23, 000 点の 植物標本
CT 画像診断検査 システム	海洋生物の健康管理に利用されるだけでなく、生物標本や、琉球文化財の非破壊内部調査にも利用。	獣医師および放射線技師が常駐
無菌操作室	無菌環境下で有用植物や希少植物の培養苗作成を実施。	クリーンベンチ 6 台を装備
培養育成室	ラン類（デンファレ、ファレノプシス、琉球列島産野生ラン等）、観葉植物類（ドラセナ、シダ類等）の培養株を保持。有用植物の大量増殖、希少種の保全。	約 15, 000 株の 培養株
熱帯植物試験圃場	熱帯果樹・花木及び在来作物の試験栽培、都市緑化植物の栽培、野生の絶滅危惧種等の域外保全施設として運用。	約 11, 000 株の 栽培株
琉球文化財研究 関連收藏品	県指定有形文化財「白澤之図」、復元漆器「七宝繫密陀絵沈金御供飯」等を収蔵、琉球文化研究・展示に利用。	1, 131 点
琉球文化財研究 関連図書	琉球文化、中国文化に関する図書を中心に収集。研究・展示に活用。入手困難な古書も含む。	8, 407 冊

8. 総合研究センターの研究スタッフ (34名)

役職	氏名	専門分野	資格	
統括	野中 正法	八放サンゴ類の形態分類学、生態学	博士 (理)	
普及開発課 職員4名	課長	徳武 浩司	鯨類学、希少動物の保全	学芸員
	補佐兼係長	仲松 由美子	水生動物の教育普及、環境教育	
	主任	国広 潮里	珍無腸動物の分類学、生態学	博士 (理)
	契約	木下 靖子	生態人類学 オセアニア海洋文化学	博士 (学術)
動物研究室 職員5名 兼任8名	室長兼上席研究員	松本 瑠偉	軟骨魚類 (サメ・エイ類)	博士 (水産科学)
	上席研究員	佐藤 圭一 (兼)	軟骨魚類学	博士 (水産)
	上席研究員	松本 葉介 (兼)	漁業振興	
	上席研究員	河津 勲 (兼)	ウミガメ類の繁殖および生態学	博士 (水産)
	上席研究員	植田 啓一 (兼)	小型歯鯨類の臨床獣医学	博士 (獣医)
	上席研究員	岡 慎一郎 (兼)	保全生態学・分子生態学	博士 (理)
	係長兼主査研究員	小林 希実	鯨類生態学、鯨類音響学	博士 (海洋科学)
	主査研究員	富田 武照	形態進化学、機能形態学	博士 (理)
	主任研究員	宮本 圭	魚類学、動物標本の管理	修士 (水産)
	主任研究員	岡部 晴菜	鯨類生態学	
	主査研究員	松崎 章平 (兼)	淡水魚類生態学、水生生物飼育	学芸員
	主任研究員	中島 愛理 (兼)	繁殖学、水生動物の臨床獣医学	獣医師
	研究員	笹井 隆秀 (兼)	爬虫類学	修士 (理)
	植物研究室 職員6名 兼任3名 契約職1名	室長兼上席研究員	阿部 篤志	森林生態学
上席研究員		米倉 浩司	植物分類学、植物地理学	博士 (理)
上席研究員		峯本 幸哉 (兼)	蔬菜園芸学	修士 (園芸)
係長兼主査研究員		砂川 春樹	園芸学、作物生理学	博士 (農)
主査研究員		佐藤 裕之 (兼)	園芸学、育種学	修士 (園芸)
主任研究員		野原 敏次	農芸化学	修士 (農)
主任研究員		辻本 悟志	森林保護学、樹病学	修士 (生命農)
主任研究員		松原 智子 (兼)	果樹園芸学、菌根菌	博士 (農)
研究員		数馬 恒平	天然物化学、生薬化学、植物化学	博士 (農)
契約職員		徳原 憲	植物細胞工学	博士 (農)
琉球文化財 研究室 職員5名 契約職1名	室長兼上席研究員	幸喜 淳	民俗学、伝統建造物塗装	修士 (民俗)
	上席研究員	泉 千尋	東洋史	修士 (歴史)
	係長兼主査研究員	宮城 奈々	染織史、織物作家	博士 (人文)
	主査研究員	久場 まゆみ	民俗学、年中行事、祭祀組織	修士 (造形)
	主任研究員	鶴田 大	日本美術史、東洋美術史	修士 (美術史)
契約職員	中野 稚里	漆芸、保存修復 (工芸)	修士 (保存修復工芸)	

## 9. 外部資金獲得実績

### 1) 調査研究費

#### 動物研究室

助成元	研究テーマ	代表者
文部科学省 (日本学術振興会)	「サメは光を盗む」説：人工子宮を用いた検証 実験	富田武照
文部科学省 (日本学術振興会)	魚類における部分的内温性の生態的意義解明	渡辺佑基 (分担者：松本瑠偉)
文部科学省 (日本学術振興会)	ウミガメ孵化幼体の表現型に孵卵条件が及ぼす 影響と機構を解明して保護活動に寄与する	斉藤知己 (分担者：河津勲)
文部科学省 (日本学術振興会)	甲殻類最強の把持力を持つヤシガニの3D組織 構造と機械的特性	井上忠信 (分担者：岡慎一郎)
文部科学省 (日本学術振興会)	深場サンゴ礁域「ラリフォティックゾーン」に 生息する魚はなぜ蛍光するのか？	宮本 圭
文部科学省 (日本学術振興会)	環境DNAによるサンゴ礁性魚類の網羅的把握： 熱帯域の生物多様性研究と保全の新展開	岡慎一郎
文部科学省 (日本学術振興会)	過酷環境における「夏眠様反応」による体液制 御法の開発	植田啓一
Pacific Whale Foundation	ホエールウォッチング、スイムツアー等の観光 産業によるザトウクジラへの影響評価調査	小林希実

#### 植物研究室

助成元	研究テーマ	代表者
(公社)農林水産・ 食品産業技術振興協会	メーオーバ種苗資源の保護についての取組	野原敏次
文化庁 (宮古芋麻継ぎ保存会)	芋麻の斑点病解明および生産圃場の土壌調査業 務	砂川春樹、野原敏次
(公社)沖縄県緑化推進委員会	ソテツカイガラムシ防除及び調査研究	辻本悟志

## 2) 受託調査事業等

### 普及開発課

発注元	受託業務名
沖縄県	令和6年度国立自然史博物館誘致推進事業委託業務

### 植物研究室

発注元	受託業務名
(一財) 自然環境研究センター	令和6年度維管束植物3種の生息域外保全及び野生復帰技術の検討・開発業務
(公社) 日本植物園協会	「令和6年度希少野生植物の生息域外保全検討実施委託業務」のうち「種子保存に関する検討」に関する業務
(株) 沖縄環境保全研究所	「令和6年度希少野生生物保護推進事業委託業務」のうち「令和6年度ナゴラン保護増殖委託業務」
農林水産省	令和6年度農林水産研究の推進(委託プロジェクト)に関する協定書の締結および委託事業
中城村	中城村試験圃場栽培指導・研究委託業務

### 琉球文化財研究室

発注元	受託業務名
沖縄県立博物館・美術館	令和6年度琉球王国文化遺産集積・再興事業復元製作・発信委託業務
株式会社国建	令和6年度首里城復元に向けた委員会運営等業務
株式会社国建	令和6年度首里城復興基金事業制作検討業務
大城織機製作所	令和4年度・5年度「手機機製作」記録作成刊行事業
文化庁	琉球建造物塗装及び古瓦製造伝承者養成事業(補助事業)
沖縄県	令和6年度首里城歴史文化継承基金事業